

平成28年6月会議

(6月14日)

一般質問

★新鏡野中学校開校について。
①学校生活は円滑に行われているか。

授業を参観しましたが、各学年とも非常に落ち着いた雰囲気
で授業が行われていました。

②いじめ、暴力行為、不登校などの生徒問題行動の状況は。

平成27年度にいじめが1件、暴力行為が1件、不登校が7名でした。

4月からは、いじめ・暴力行為はなく、不登校は前年度から引き続き続いている生徒が5名です。

③スクールバスの安全性は確保されているか。

運行は民間のバス会社などに委託し、会議でも安全運転を再度お願いしています。

運行時間の設定もゆとりを持ち、安全な運転には十分心掛けています。

④学力テストの結果公表はどうなるのか。

県教育委員会により、市町村別結果が公表されていますが、県教育委員会の方針として対象校が1校の市町村は除か

め、町では中学校が1校となったので、今年度から公表されません。

⑤行財政改革の二環としての効果は。

統合後初年度のため、現時点での効果というのは難しく、今後は施設の維持管理費、修繕費用などの面で経費削減の効果があら

るものと考えています。

★中学校跡地の活用について。
①建物、設備の安全性はどうか。

校舎は耐震診断を行い、改修も済ませています。

②どのような跡地利用が検討されているのか。

富中学校跡地は、地元から公民館、歴史資料館、放課後児童クラブなどの機能を備えた複合施設にと要望があり、本6月会議に設計費を補正予算計上しています。

奥津中学校跡地は教育関係、産業関係の共用施設として利活用を図っていきます。

上齋原中学校跡地は建物が小学校・幼稚園と同一敷地内で繋がっている事情から、転用は難しい状況です。

★香典返し、放課後児童クラブの預り金不明事件の真相解明状況と、解決に向けての取り組みは。

警察の捜査が行われていますので、見守ります。

★条例制定後の取り組みについて。

①鏡野町暴力団排除条例に抵触する案件の有無と課題は。

現在、条例に抵触する事案は発生していません。今後も警察と連絡、情報共有を行い、安心・安全なまちづくりを推進します。

②健康づくり条例の効果と課題は。

健康づくり計画を策定し、地域社会全体で町民個々の健康づくりをしていく体制づくりを進めていきます。

今後より多くの町民に健康づくりへの意識を高めてもらい、個々に取り組んでもらえる支援体制の強化に努めます。

③飲酒運転撲滅に関する条例の効果と課題は。

平成27年中の津山署管内の飲酒運転検挙数は34件です。警察署は市町村ごとの集計は行っていない。

今後、春秋の交通安全県民運動、法令講習会等の周知徹底を図り、啓発活動に取り組みます。

★農業機械等導入支援基金事業の実施について
①集落営農等の営農組織、認定農業者、大規模経営体の推移いかん。

集落営農組織の組織数は、平成25年度は10組織、26年度12組織、27年度12組織と増加しています。

農業生産法人の組織数は、平成25年度、26年度、27年度とも12組織で変更はありません。

認定農業者は、平成25年度は65人、26年度74人、27年度83人と大きく増加しています。

大規模経営体の推移は、3ha以上の経営体は、平成26年度は15経営体、27年度は18経営体で増加となっています。

②、①の経営体どうしの連携はなされているか。

地域や集落の中心となる経営体も生まれ、農地の集積は進んでいます。これらの経営体の農地は、多くの場所に分散し、は場間の移動に費やす時間が必要で、大型農業用機械の効率的な利用の妨げになるなど、連続した農作業の実施に支障が生じています。

機械化・規模拡大によるメリットを十分に享受できない状態のため、今後、対応が必要と認識しています。

③この事業を受けて、大規模化した土地利用型農業経営体に対して、今後行政の支援は。

次の段階として、経営体間で

の農地の交換などの面的な集積が必要で、有効な施策の検討を進めます。

積極的に農地中間管理事業などを活用し、地域の担い手間で分散している農地の利用権の交換を促進するなど、農地の集約・集積を進めます。

経営体の法人化を推進し、農業経営の厚みを増していくため、営農規模の拡大、農商工の連携、6次産業化、農業法人等による雇用就農を促進できる施策を検討します。

★町産農林水産物のブランド化について。

①鏡野ブランドへ繋がる取り組みの進捗、結果いかん。

昨年度から町内の農業士、農業法人、青年農業者クラブ会員やその奥様方から、直接町の農業振興について意見を聞き、現在も、様々な町民の皆さんのお話を積極的に聞いている状況です。

現在、商工会、農協、森林組合、鏡野町などで構成する「6次産業化育成検討委員会」が中心になつて鏡野ブランドの構築の検討をしています。

その結果、町内産であることを認証する名称やマークを使用したラベルやパッケージの町らしい素材を使ったデザイン作成など協議をしています。

②「健康の町かがみの」を支える柱として、鏡野産農林水産物を位置づけてはどうか。

町内には健康を維持・増進す